

## 第15講 まとめ

### ギリシア史における構造

#### 長期構造

##### 1. 地理的構造

ギリシアと他の地域を結び付けるもの

地中海の海流（岩片、『古代ギリシアの農業と経済』、2頁、図1-1）

逆時計回り（1～1.5ノット）

北岸：西向

南岸：東向

東岸：北向

西岸：南向

東地中海の海流（時計と逆回り）

ギリシア本土をエジプト・シリア・小アジア・トラキアの海岸と結び付ける

ギリシアとイタリアを結び付ける

黒海（塩分濃度薄い）から地中海へ（5ノット：表層）

卓越風（1年のうち10ヶ月は北東風：岩片、14頁、図1-3）

4月（北東）、5月（南）、6月（南西）、

7月（北東）、8月（北東）、9月（北東）

帆走に利用

開放的な空間

北のバルカン半島、さらには中部ヨーロッパ結びつける

（アドリア海沿い・黒海沿いのルート・ドナウ川を遡行するルート）

新石器時代における角貝の腕輪の輸出（ブルガリア：常木）

多島海としてのエーゲ海

東西の架け橋

アッティカ式黒像土器

サルディス襲撃・マラトン遠征・アルギヌサイの海戦など

トラキア回廊部

軍事遠征のルート

クセルクセス遠征軍・アレクサンドロス東征軍・クラッススの遠征軍など

クレタ島・ロドス島・キプロス島

エジプトやシリアとつながる海の道

## 2. 農業環境

### 土壌

#### テラロッサ土壌

石灰岩の風化により形成

赤色地中海性土壌（表層）と褐色地中海性土壌

赤色地中海性土壌は腐食土を含む

褐色地中海性土壌は吸気性・透水性に乏しい

溶脱・浸食による栄養分喪失。低い栄養分吸着・保持能力。

石灰岩と片岩からなるやせた土壌：オリーブやブドウに適した土壌

### 植生

#### 氷河期末期の変化

地中海性植生の出現（ナラ林を中心）

#### 初期鉄器時代における変化

劣化した地中海性植生

ナラ林の減少・マッキの拡大

マツ林の進入・オリーブの拡大

### 牧畜

牛や馬などの大型獣ではなく

ヤギやヒツジを中心とする牧畜

### 気候的構造

#### 地中海性気候

夏期：高温・乾燥

冬期：温暖・湿潤

北極圏高気圧の張り出しとサハラ砂漠に中心を置く亜熱帯高気圧の張り出し  
極前線の位置

降雨量の不安定性（年間・地域）

農業戦略：多品種・少量生産選好

### 地学的変化

海面上昇（4m）

土砂堆積による海岸線の後退（ミレトスやエフェソス、ティリンスなど）

港湾都市としての衰退（中世以降）

## 人文学的要素

### 分割相続慣行

土地の分散所有を促進

### 家父長制的家族構成

ギリシアの政治・社会文化の基層

### 都市以上の政治組織を形成しえず

政治的分立主義の伝統

### ギリシア正教

中世以降のギリシア社会の文化的基礎

## 中期的構造

### 都市（ポリス）や国家（ネーション）

前 6 世紀の意識の産物

前 4 世紀には薄れていく

19 世紀の産物

トルコという仮想敵国の存在のみが接着剤

### 種族（エトノス）と民族（ネーション）

方言や慣習の帰属意識

政治的共同体（コイノン）の形成

しかし実際には文化的概念でしかない

運命共同体としての民族は存在せず

その時々々の政治的状況の産物

### 市民権（ペリクレスの市民権法）

前 451 年の産物

### 同盟（シュンマキア）や連邦（コイノン）

### 穀物の輸出禁止

古代都市の法慣習

### 民族は近代の産物

メガレ・イディア

血統では定義できず

結局、ギリシア正教という宗教でしか定義できず

## 短期的事件

アテナイの政治史（地域に限られる）

ソロンの改革（前 594）

ペイシストラトスの僭主政（前 561）

クレイステネスの改革（前 508）

## 一時的影響

ペルシア戦争（前 492-479）

ペロポネソス戦争（前 431-404）